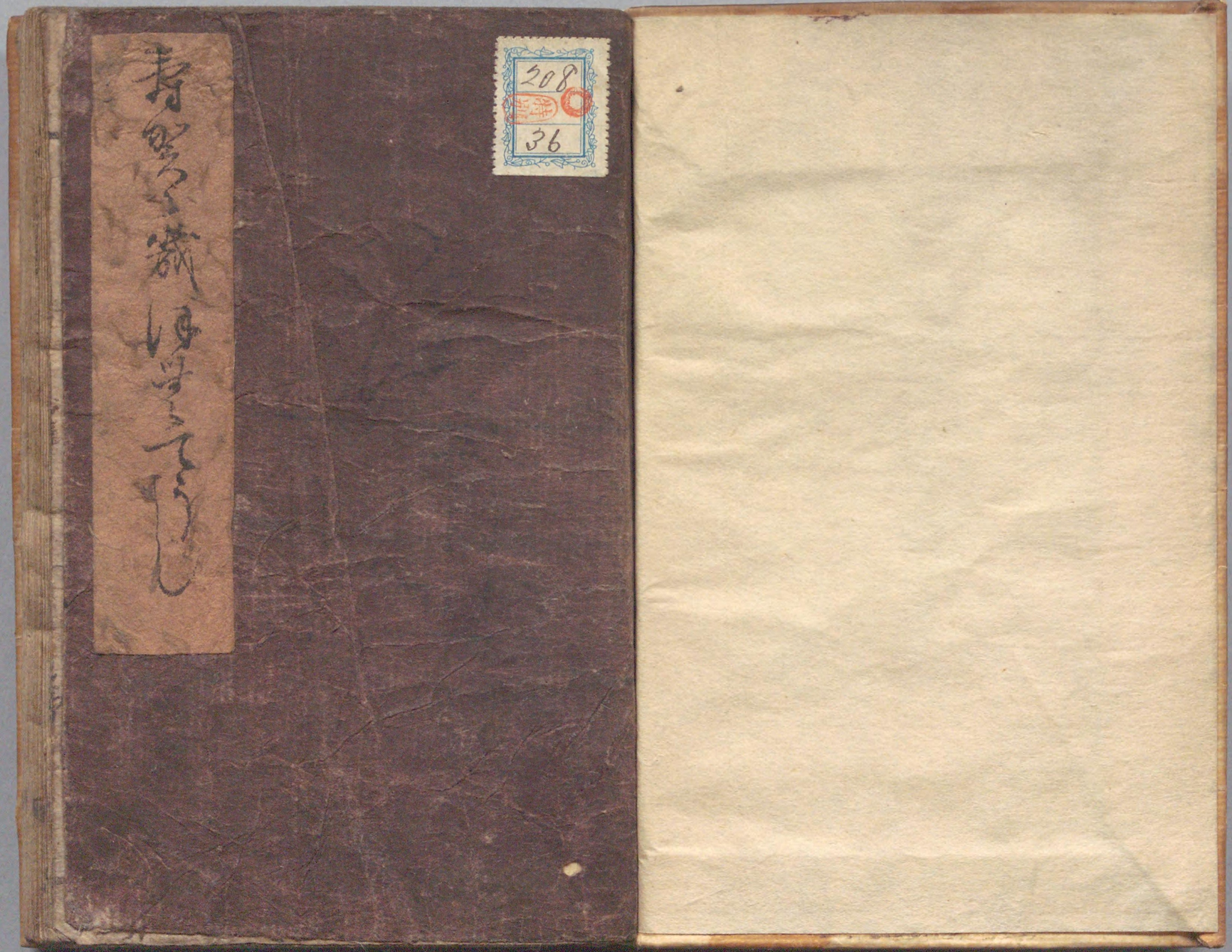
国立国会図書館　　青楼真廓誌 208-36

ガラス使用



208
36

国立国会図書館　青楼真廓誌 208-36

ガラス使用

序

国立国会図書館　青楼真廓誌 208-36

ガラス使用

国立国会図書館　青楼真廓誌 208-36

ガラス使用

を欲息して聞得未見
の口を鋭一助雲中金
暗な秋に原を与ふ
怪しきの似情に嘆
ぬれハこを論の見識ハ
此小冊に くらし空

葉此見の馬ゆるまさせ
お二ろまし九いふつる
上り

女子登富嶽之年
初春 也

云亭

国立国会図書館　青楼真廓誌 208-36

ガラス使用

国立国会図書館　青楼真廓誌 208-36

ガラス使用

目録

○第一回　まじアこゝせのせんのとりふ

○第二回　飛河岸のせうつをきるん

青楼真廓誌

孝不孝二ツ並る全枕とハ宜哉才を親の為ニ
賣て苦界ニ入代國の哉女唐の妓親迦を
行賣女色と説ゆけるしかが遊君のたかるべ
遠ハ即伐賣ハ家人のその孫ハ才をせるのの
うまいを史實ニ男女の婬乗ハ息髭を抱くこ
古人の金言賢を賢として色ニ易よこ親

国立国会図書館　青楼真廓誌 208-36

ガラス使用

分の遺言保さよいやもすれ
あんまに一端の遊子の
とりぶ一日例の戯作ふのこ
[本庵] 退屈ごあもりどん蒙昧でもさつせ
[むま] イとうに好きこ学をさ
いろ〳〵友〳〵らとうて年始廻りしに
三日程ふのこと程に黒八のついの
まかんとうのうりのがくはくの
[illegible]

バツタリト
[illegible]
[如琴] 本庵今お[illegible]
時ふおすゑさん一晩ありて
[illegible]
[すま] 又如琴さんの
世話あやアこまる大切ふ
[illegible]
[本庵] いろ〳〵
[如琴] 今
[illegible]

国立国会図書館　青楼真廓誌 208-36

ガラス使用

国立国会図書館　青楼真廓誌 208-36

ガラス使用

国立国会図書館　青楼真廓誌 208-36

ガラス使用

国立国会図書館　青楼真廓誌 208-36

ガラス使用

国立国会図書館　青楼真廓誌 208-36

ガラス使用

国立国会図書館　青楼真廓誌 208-36

ガラス使用

おもしろくもあき里でこゝろのやすまるとへてとゞまりてあそびたのしむ

[妓]むすめ　きやくをまねきて居ます

[町]人ハ一ぱいをあそべばの中ぶらりもよし

[町]気をつけてたのしむ[妓]事どもをつかふ

[町]あの座敷が一ばんぎやくに居ます

[妓]ようこそ御入なさいました私ハおまへのおいでなさるのをまつてゐました

[町]おまへをしてまつてゐたとハうれしい

[妓]実ハ世界を用ありて書遣しましたが

[町]其の所のお客ハ金の事の

[妓]御不精ハもつての外

[町]精気の抜ける御酒の毛ぬき

[妓]ホヽヽヽヽ

国立国会図書館　青楼真廓誌 208-36

ガラス使用

国立国会図書館　青楼真廓誌 208-36

ガラス使用

国立国会図書館　青楼真廓誌 208-36

ガラス使用

国立国会図書館　青楼真廓誌 208-36

ガラス使用

国立国会図書館　青楼真廓誌 208-36

ガラス使用

もしへそをかくの極よう包でのハるんでござ
[こ]のこゝろくもるやア 松ばやきやく
てゐつまでハもりしの [木] おきもやうき
[いち]めりやうそばけどもとうたねがつて
飯をもり [きさ] あさんよろ
[木]ともおりん先こくうわき牛りかた
[末]又おろかなをうをさでするこゝろ
ゝろうおく [木] るふうの

[て]こゝろのうおく [国] あ
やまりちいさく [ば] ま
こゝろくろくろくろ [木] 行の
まゝかりやり [さよ] さ
まうんをのうのうえでたゝ
ほしん [川辺] まつさゝおそ
勢ゐを [川当] たゞそう [区] りう
さんをさより [川] おのねぐ

国立国会図書館　青楼真廓誌 208-36

ガラス使用

国立国会図書館　青楼真廓誌 208-36

ガラス使用

国立国会図書館　青楼真廓誌 208-36

ガラス使用

めざそうでもあけくつくとまろうをとつ
ちがいやなしこつちもよりて成へ [なと] ツリヤア
おねりがとふおぎりぬもぬりがとふ是
いつておんなんをりやアこつちもおりふ
男をとれてよじいをよくいつて
おんな事をとれせくやのばりふ
何ぞ男ハおつせん [不] 此なまア
そんざそりのまちぐコレ二日の礼

日から人のいやかるたゞ此さしく
ちいりこそとまことの上よりけくまぐア
まなかもきかねく不面さんざア此ゐる
ハがおれがこちで内へ疎のハしまり
ごけふいしくおりつているのざへんてこ
めく トけつきりおんまくり 見でまくらとけおス [なと] よりてもおんな
事たるまの色男の定紋がついて
いきア [不] けアやアなんざやうんせ

国立国会図書館　青楼真廓誌 208-36

ガラス使用

のたまふこゝろねがきをつゝしみ
いつをぎくのおもわくもはづかしく
ありてそちら[ゐ]あまれるこゝろでも
こゝろぐんぐんとやかのおもはく
かゝりて△うるせうらくかーおよまんがないうさ
[同末]人のやりてきそせて
しるんるちぐさのこと
わくをいつまでもあつまえ[仙]まさ

ものまんなぐちをいつまでもまさるまぐ
所今をまもるやア外のおもはくも
めんでもねぐ[いの]それしかつまらぬのこゝろにてくさ
ちやアたちのせん[如]まてるのうち
やるのよう人のまやアやの
とまんがよけいうぢとをしている

国立国会図書館　青楼真廓誌 208-36

ガラス使用

ざろうぞかてかゝ目ろうりにして
たまるとのゝ 【いの】 それとゝいふもおめく
さんハうるさきことよのざらにありひまじ
をとるもゆのあさまゝかゝるなぶめく
とんでもおつせん 【如】 なんどしいつて
むりに口説(くぜつ)をしてもあくのおくらゝ
あきがまゝのゝ 【いの】 とりやアどの
口でまつ(トつ)をしてそんなはまゝちなかる

こんなに鬼ハのみいせん 【如】 これよりきゝ
けよおれざとゝせんらふなるてもあくまれ
ちやアとゝざちのまへはすまかねへハ(たとこゝ)
【いの】 をしかゝぬしのんなるくまをとゝなり
ておきもしいしやうがぞふもはなこ
の二ついハ鬼がかうなるすがおざりい
すたがるかゝはぬきんをよびはりこゝろ 【如】 りふいかねと
いろちやアどんなこうぞいかねへいつさが

国立国会図書館　青楼真廓誌 208-36

ガラス使用

国立国会図書館　青楼真廓誌 208-36

ガラス使用

第二回

人生再莫少年春千金を費し
此里の深意を知んやうもなくて
身をあやまりて目前ふためしたれ
しゆらくもあやぐらに心を動せらん
蓋ことなりて買ふぞのぼせて通さ
もくして通の通たらんとの傾情
もあるし事なくて惚ることなれは

ぞ今懺悔すそも如何いしみやぐな
此ありへハ無性ふ嘆もいやなること
傾情ハ金深事とハ嗚呼見へ夷狄
の言なんたとへ阿龍鳳雛か如
翼ありとも此道におこたりなは
真相を忘をさらつる事如さし
引ハきえんとしてしやつまりまとひ此よ
まうりうんらいまでしらふ雲に男と

国立国会図書館　青楼真廓誌 208-36
ガラス使用

国立国会図書館　青楼真廓誌 208-36

ガラス使用

国立国会図書館　青楼真廓誌 208-36

ガラス使用

国立国会図書館　青楼真廓誌 208-36

ガラス使用

国立国会図書館　青楼真廓誌 208-36

ガラス使用

国立国会図書館　青楼真廓誌 208-36

ガラス使用

国立国会図書館　青楼真廓誌 208-36

ガラス使用

国立国会図書館　青楼真廓誌 208-36

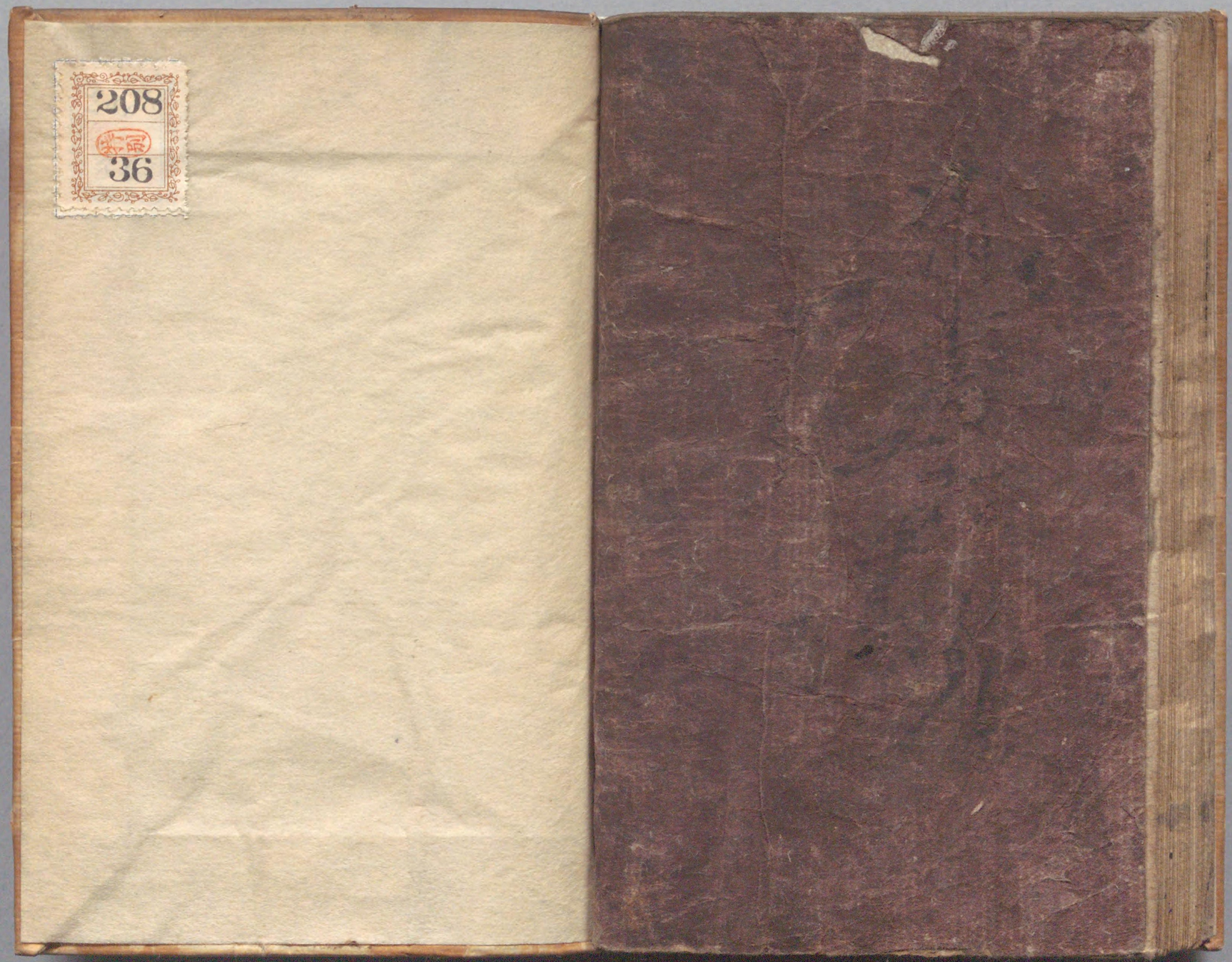
ガラス使用

208
36

国立国会図書館　青楼真廓誌 208-36

ガラス使用

208
昭
36



国立国会図書館　青楼真廓誌 208-36

ガラス使用

国立国会図書館　青楼真廓誌 208-36

ガラス使用